

医療機関アンケート集計結果等について【東濃圏域版】

平成30年8月に実施した「医療機関アンケート」の回答があった医療機関を一覧にしています。

No	医療機関名	圏域	所在地	2017年7月1日時点機能別病床数 ① 【H29年度病床機能報告結果】					将来（2025年）の病床機能の予定 ②					②-①					備考			
				合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他（休棟等）	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他（休棟・廃止等）	合計	高度急性期	急性期		回復期	慢性期	その他（休棟等）
1	岐阜県立多治見病院	東濃	多治見市	510	272	218		20		510	272	218		20		0	0	0	0	0	0	
2	総合病院 中津川市民病院	東濃	中津川市	360		233	40		87	360		237	79		44	0	0	4	39	0	▲43	
3	土岐市立総合病院	東濃	土岐市	350		216	60		74	350		216	60		74	0	0	0	0	0	0	
4	社会医療法人厚生会 多治見市民病院	東濃	多治見市	250	8	192	50			250	2	208	40			0	▲6	16	▲10	0	0	
5	市立恵那病院	東濃	恵那市	199		148	51			199		148	51			0	0	0	0	0	0	
6	国保坂下病院	東濃	中津川市	199		110		50	39	50				50	▲149	0	▲110	0	0	0	▲39	
7	国保上矢作病院	東濃	恵那市	56		19	37			56		19	37			0	0	0	0	0	0	
8	東濃厚生病院	東濃	瑞浪市	270		270				270	55	215				0	55	▲55	0	0	0	
9	城山病院	東濃	中津川市	80			40	40		80			40	40		0	0	0	0	0	0	
10	高井病院	東濃	土岐市	60				60		60				60		0	0	0	0	0	0	
11	サニーサイドホスピタル	東濃	多治見市	50			50			50			50			0	0	0	0	0	0	
12	タジミ第一病院	東濃	多治見市	50			20	30		50			20	30		0	0	0	0	0	0	
13	森川クリニック	東濃	恵那市	19			19			19				19		0	0	0	▲19	19	0	
14	安藤クリニック	東濃	多治見市	19		19				19		19				0	0	0	0	0	0	

No	医療機関名	圏域	所在地	2017年7月1日時点機能別病床数 ① 【H29年度病床機能報告結果】					将来（2025年）の病床機能の予定 ②					②-①					備考			
				合計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	その他 （休棟 等）	合計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	その他 （休棟・ 廃止等）	合計	高度 急性期	急性期		回復期	慢性期	その他 （休棟 等）
15	林メディカルクリニック	東濃	中津川市	18		18				18		18			0	0	0	0	0	0	②について、未記入のため、 H29年度病床機能報告結果 （6年後の機能）を用いる	
16	めぐみレディースクリニック	東濃	多治見市	15		15				15		15			0	0	0	0	0	0	②について、未記入のため、 H29年度病床機能報告結果 （6年後の機能）を用いる	
17	中西ウィメンズクリニック	東濃	多治見市	14		14				14		14			0	0	0	0	0	0	②について、未記入のため、 H29年度病床機能報告結果 （6年後の機能）を用いる	
参考資料3-1【小計】				2,519	280	1,472	367	200	200	2,370	329	1,327	377	219	118	▲ 149	49	▲ 145	10	19	▲ 82	※精査中

医療提供体制の構築に向けて、各医療機関が地域における自らの立ち位置を把握し、地域の実情に加え、自施設の現状を把握することが重要であるため、お聞きしたものです。

自施設の課題として、各医療機関が地域において今後担うべき役割を検討するにあたり、地域及び自施設の現状を踏まえ、自施設の持つ課題を整理するために、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	自施設の現状	自施設の課題
1	岐阜県立多治見病院	東濃	<ul style="list-style-type: none"> ●高度急性期及び急性期の患者を受け入れ、医療の提供体制を整えている。 ●高度・急性期医療、急性期医療及び政策医療などに積極的に取り組んでいる。(救命救急医療、周産期医療、がん医療、精神科・感染症医療、緩和ケア) ●地域医療支援病院として、多治見シャトルの運営など、近隣医療機関との連携を高め、医療連携を進めている。 ●地域内の医師不足地域の医療機関や、へき地医療機関への診療支援。 	<ul style="list-style-type: none"> ●東濃医療圏では、高度・先進医療、急性期医療及び政策医療など他の医療機関では実施が困難である。 ●中央診療棟や医療機器などの老朽化により、医師や看護師の確保が難しくなっている。 ●地域医療支援病院として近隣医療機関と更なる連携を高める必要がある。
2	総合病院 中津川市民病院	東濃	<ul style="list-style-type: none"> ■診療実績(H29) 届出入院基本料:急性期一般入院料1、地域包括ケア病棟入院料2 平均在院日数 :12.0日 届出)病床稼働率:67.1% ■職員数(H30.6常勤数) 医師:40人+委託2人 看護師:206人 医療技術職:62人 一般事務職員:20人 ■特徴(H30.8) 4機能のうち急性期5病棟 回復期1病棟 ■政策医療 5疾病のうち糖尿病で非常勤医対応となっています。精神疾患は、医師が不在の状態です。 5事業のうちへき地医療以外を対応しています。 その他:DrCar(病院前救急診療科) 	<ul style="list-style-type: none"> ■「中津川市新公立病院改革プラン」(平成29年3月策定)に沿って、2病院(中津川市民病院、国民健康保険坂下病院)の機能再編、集約等に取り組んでいます。 坂下病院は慢性期の機能を担うとしたが、機能を担う医師をはじめとするスタッフの確保が困難な状況等があり、場合によっては当院の機能を拡大する必要があり、踏込んだ機能再編が必要な時期にきています。
3	土岐市立総合病院	東濃	<p>土岐市、瑞浪市を区域とする二次医療圏の基幹病院として25診療科を標榜し、急性期病床290床(うち病床74床)、地域包括ケア病床60床及び老人保健施設(定員100名)を併設している。</p> <p>瑞浪市に所在する東濃厚生病院との輪番制により二次救急診療を実施しているが、脳卒中については同センターを設置し、24時間、365日体制で診療を行っている。</p> <p>一方、臨床研修病院として多くの研修医を受け入れ、育成に努めている。</p>	<p>病院建設以来30年が経過し、施設設備の老朽化及び手狭感が顕著になってきている。</p> <p>近年は人材の確保にも苦慮しており、特に常勤医師の確保がままならず、常勤医師不在の診療科が偏在し、救急医療や入院治療に影響を及ぼしている。</p>
4	社会医療法人厚生会 多治見市民病院	東濃	<p>多治見市には、二次医療機関としての多治見市民病院と三次医療機関である県立多治見病院があり、両者の役割を分担して有機的に運用するための連携が重要である。また、専門医療に関しては、両病院の特色を出して両病院で補完しあうような工夫が必要である。無用な競合は避けるべきである。当院は、平成30年5月からこれまで閉鎖していた4階北病棟26床を開き、現在238床で運営している。さらに平成30年度から臨床研修病院基幹型に認定され、平成31年度から2名の研修医を採用する予定である。</p>	<p>1) 医師の確保 現在常勤医27名であるが、内科系と外科系の医師の確保を計画している。今後2年間で約10名の増員が必要になる。 2) 研修医の確保 現状では2名枠であるが、フルマッチ2年間継続すると岐阜県の配分で増員が認められる。3-4名枠に増員したい。 3) 連携型臨床研修病院として、愛知医大プログラム、木沢記念病院プログラムでのローテーション研修 4) 外来患者数の増加:駐車場整備の問題、午後の専門外来の開設。医師補助・医療事務職員の増員、看護師の増員 5) 血液透析室の充実 患者数の増加により血液透析患者への対応が必要。現状4床で運営しているが、31年度に10床に増床予定</p>
5	市立恵那病院	東濃	<ul style="list-style-type: none"> ・総合診療を軸とした地域医療、二次救急医療の提供 (Common Diseaseの治療) ・回復期医療の提供 ・附属訪問看護ステーション・通所リハビリセンターでの介護サービス提供 ・周産期医療、透析医療の提供 ・健診事業による住民の健康づくりへの協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・医師・看護師等医療従事者の確保が困難 ・地域開業医の高齢化による在宅医療・一次医療の脆弱化 ・住民の専門医志向が強く紹介患者数が伸びない

病床転換予定の有無、転換する病床機能、時期等をお聞きしたものです。

前述の「自施設の現状」「自施設の課題」、「2025年の4機能ごとの病床数」を踏まえ、担うべき役割をお聞きしたものです。

2025年に向けた診療科の見直しについて、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	病床機能の転換予定	2025年に向けて担うべき役割	診療科の見直し
1	岐阜県立多治見病院	東濃		<ul style="list-style-type: none"> ●高度急性期及び急性期の患者を受け入れるため、現状の病床数を維持。 ●高精度・先進医療。急性期医療及び政策医療など他の医療機関では実施が困難で、地域に不足している医療に積極的に取り組む。 ●近隣医療機関との連携を高め、協力体制の充実により、紹介・逆紹介の促進を図る。 ●上記医療を提供できるよう中央診療棟の整備、計画的な医療機器の新規購入や更新、電子カルテの更新、医師や看護師等の確保など、ハード・ソフト両面を整備していく。 	
2	総合病院 中津川市民病院	東濃	<p>・平成30年8月から坂下病院急性期一般病棟が閉鎖及び休止となることに伴い、中津川市民病院では、平成30年9月から休床病棟を回復期病床（地域包括ケア病棟）として39床再稼働させています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東濃東部における中核的な病院としての機能を担います。 ・入院機能について急性期及び急性期後の回復期病床を担います。 ・市内の在宅療養後方支援病院の役割を担います。 	<p>【新設】 血管外科 【変更・統合】 外科・脳神経外科・救急科 【理由】 坂下病院の再編に伴い統合します。</p>
3	土岐市立総合病院	東濃		今後予想される二次医療圏の医療需要の減少と医師等の医療資源の減少が見込まれることから、近隣病院との再編・ネットワーク化による医療資源の集約を図り、中長期的に基幹病院としての機能を維持していく必要がある。	
4	社会医療法人厚生会 多治見市民病院	東濃	現在、回復期リハビリとして10床を休床にしているが、単純な回復期リハビリよりは、急性期医療が必要になることは明らかである。2020年度に向けて回復期リハビリをどのように転換するか検討する。	現在、回復期リハビリとして10床を休床にしているが、今後の医療の必要性は不透明な部分が多い。県立多治見病院では、三次救急を主体にして比較的中年者を対象としているが、当院は高齢・超高齢者の肺炎・感染症に対応する必要があり、今後、ニーズが高くなることが予想される。単純な回復期リハビリよりは、急性期医療が必要になる可能性が高い。	
5	市立恵那病院	東濃			

医療提供体制の構築に向けて、各医療機関が地域における自らの立ち位置を把握し、地域の実情に加え、自施設の現状を把握することが重要であるため、お聞きしたものです。

自施設の課題として、各医療機関が地域において今後担うべき役割を検討するにあたり、地域及び自施設の現状を踏まえ、自施設の持つ課題を整理するために、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	自施設の現状	自施設の課題
6	国保坂下病院	東濃	<ul style="list-style-type: none"> ・理念：地域に信頼され、優しく、温もりのある地域包括ケアを実践 ・基本方針：日々研鑽に励み、患者様一人一人と心のふれあう最善の医療提供 ・入院基本料：一般10：1、療養20：1 ・平均在院日数：一般14日、療養27日 ・病床稼働率：一般29.2% 療養61.0% ・政策医療：(3疾病・1事業) ・施設の特徴：4機能のうち慢性期が中心 ・医師4名・看護師53名 その他医療職45名 事務職14名 ・他機関との連携：急性期医療については市内の他の公立病院との連携を前提に対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・急激な医師不足となり、市内の他の公立病院との機能分担が必要。 ・外来診療科目について検討が必要。
7	国保上矢作病院	東濃	<p>【理念】 ～地域医療は住民こそ主人公～</p> <p>【診療実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般病棟入院基本料(急性期一般入院基本料5) ・地域包括ケア入院医療管理料1 ・平均在院日数12.4日(一般病床のみ) ・病床稼働率(69.8%) (平成29年度実績) ・訪問看護ST併設 <p>【職員数】(平成29年度実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師3名・看護師(准看含む)32名・看護補助者5名・薬剤師3名・診療放射線技師3名・臨床検査技師3名・理学療法士4名・管理栄養士1名・相談員2名・事務職員4名 <p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急性期・回復期 <p>【担う政策医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急医療・へき地医療 <p>【他機関との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・へき地診療所への週1回の医師等派遣 	<p>地域で不足している、急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる医療機関としての当院役割の検討。最寄りの一般病院(市立恵那病院)までは28kmあり二次医療の提供まで時間がかかる。</p>
8	東濃厚生病院	東濃	<p>【理念】</p> <p>「歩みいる者にやすらぎを 去り行く人に幸せを」私たちは地域の皆様に愛され、親しまれ、そして信頼される病院を目指します</p> <p>【診療実績】(①②はH30.7.1現在、③④はH29実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①届出入院基本料(急性期一般入院料1)、②許可病床(一般病床：270床)、 ③病床稼働率(71.7%)、④平均在院日数(16.0日) <p>【職員数】(H30.7.1現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> 医師(34名)、看護職員(213名)、他専門職(72名)、事務職員(27名) <p>【特徴】</p> <p>診療体系において「呼吸器系」「消化器系」が東濃圏域2位の患者シェア 救急患者の受入体制を強化し、救急車の受入件数は年々増加</p> <p>【政策医療】</p> <p>がん等の疾病の早期発見のため検診活動の充実 JAグループと一体となり、ピンクリボン運動による乳がん検診啓発活動への取組</p> <p>【他機関との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> へき地診療所等への医師派遣(恵那市南部)、災害医療体制の強化(瑞浪市)、 医科歯科連携ネットワークの構築(瑞浪歯科医師会) <p>(詳細は別添「2025プラン」参照)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にとって最良な医療、介護サービス等を提供する上で、適正な病床機能の在り方 ・医師の確保 ・初期臨床研修医及び専攻医の確保 ・専門診療科の充実(小児科、脳神経外科、内分泌内科、精神科) ・医療従事者等の業務負担軽減に係る働き方改革への対応 <p>(詳細は別添「2025プラン」参照)</p>

病床転換予定の有無、転換する病床機能、時期等をお聞きしたものです。

前述の「自施設の現状」「自施設の課題」、「2025年の4機能ごとの病床数」を踏まえ、担うべき役割をお聞きしたものです。

2025年に向けた診療科の見直しについて、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	病床機能の転換予定	2025年に向けて担うべき役割	診療科の見直し
6	国保坂下病院	東濃	<ul style="list-style-type: none"> ・医師不足により一般病床50床を休床。(H30.8.1) ・今後の転換予定は未定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の現状を考慮し、現在の外来診療科目は一定程度維持する必要があるが、規模の適正化を検討する。 	<p>【廃止】未定</p> <p>【理由】坂下病院の外来診療科については、外来患者数や採算性を考慮した上で、医師確保が可能な診療科を残す予定である。今後、診療科が減少する可能性は大である。</p>
7	国保上矢作病院	東濃		<p>地域における回復期機能及び慢性期機能として担えるか検討する。</p> <p>地域の現状を考慮し、現在の急性期病床は一定程度維持していく必要はあるが、規模(病床数)の適正化を検討する</p>	
8	東濃厚生病院	東濃	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年4月より近隣の医療機関が、外来及び救急搬送患者の受入を縮小したことにより、当院の救急搬送患者の受入件数が大きく増加。これにより、病床機能報告において重症患者の指標とされる項目の算定件数が増加している現状であることから、平成30年度の病床機能報告には、55床を高度急性期病床として報告予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた医療資源の中で「地域完結型」の医療を支える役割が必要であり、地域の医療需要に応えるため急性期医療の中核的役割を担う ・東濃中部地域の救急医療体制の強化 ・地域の医療機関との連携の推進 ・地域包括ケアシステムの構築に向けた病床機能の再編及び行政、他医療機関等との連携強化による在宅療養患者の受入体制の充実 ・がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病に対する診療体制の充実及び連携強化 ・災害発生時の医療提供体制に係る行政及び近隣医療機関との連携強化 ・疾病の予防及び早期発見のため、検診事業の拡充に係る行政との連携強化 ・重症心身障がい児者短期入所事業、新型インフルエンザ対策、鳥インフルエンザ対策に対応できる体制の確保(詳細は別添「2025プラン」参照) 	

医療提供体制の構築に向けて、各医療機関が地域における自らの立ち位置を把握し、地域の実情に加え、自施設の現状を把握することが重要であるため、お聞きしたものです。

自施設の課題として、各医療機関が地域において今後担うべき役割を検討するにあたり、地域及び自施設の現状を踏まえ、自施設の持つ課題を整理するために、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	自施設の現状	自施設の課題
9	城山病院	東濃	40床の回復期リハビリテーション病棟では地域連携/パスのもとに中津川市民病院を主として年間120名ほど受け入れている。 40床の療養病棟では年間75名の看取りを行っている。	療養病棟での看取りがこの3年で急激に増加しており、看護・介護体制を強化する必要性があり、人件費が高騰している。看取りが増加している背景は、終末期を抹消点滴で迎える紹介患者が多くなったため。 高齢独居、在宅介護困難者が増加しており、回復期・慢性期とも症状が改善しても一定数は在宅退院は困難。
10	高井病院	東濃	地域の急性期病院の後方支援病院として位置づけと地域の皆様の健康維持・促進、かかりつけ病院	地域の皆様の高齢化に伴い、病院まで足を運ぶことが困難な患者さまが増える中、訪問診療を実施することは不可欠であるが十分な常勤医師数を確保できていない
11	サニーサイドホスピタル	東濃	回復期リハビリテーション専門病院として、急性期病院とのシームレスな医療連携を重視している。また、紹介された患者さんは、ほぼ全例、退院後はもとのかかりつけ医に受診していただいている。このような医療連携においては、お互いの信頼関係が最も重要であり、また、各医療機関が自らの立ち位置を認識することが重要である。当院および急性期病院との関係は極めて良好である。	当地域では、急性期、回復期のバランスは現状でよいと考える。
12	タジミ第一病院	東濃	○理念、3本柱 (理念) ・安心して家族を預けられる施設 (3本柱) ・透析・リハビリ・高齢者医療 ○診療実績 ・地域包括ケア病棟入院料1(20床・89.6%稼働) / 療養病棟入院料1(30床・95.5%稼働) / 在宅療養支援病院 / 在宅医療・(介護予防)訪問リハビリテーション提供 ○他医療機関との連携 ・入退院支援 県立多治見病院	・2階病棟に地域包括ケア病棟を平成27年7月に開設し、急性期医療を終えたあとの患者の受け皿としての地域医療を提供する役割を担っているが、中心地において同様の受け皿となる施設を開設し、入院連携が取れなくなってくることで懸念される。 ・入院患者の確保をいかに行うか、医師・看護師・薬剤師等の人材確保等が今後の課題となる
13	森川クリニック	東濃	理念 地域、施設のかかりつけ医として対応 診療実績 有床診療入院基本料2(10床)有床診療療養病床入院基本料(9床) 職員数 30名 特徴 回復期医療・慢性期医療・透析	近隣の市民病院が透析診療を始め、診療科目が重複することから、現状の体制を維持するか検討する必要がある
14	安藤クリニック	東濃	有床診療所入院基本料1 平均在院日数5.9日 肛門疾患の急性期医療	手術入院患者と県病院などからの受入患者をどのような比率、タイミングで受け入れるか、それに見合うスタッフの態勢。
15	林メディカルクリニック	東濃		
16	めぐみレディースクリニック	東濃		現状の体制を維持すべきではないと考えている。 まずは、医師が病院運営を出来ない事により発生する問題はありますが、開院すればよく、市や県と国が攻められればよいと思います。
17	中西ウィメンズクリニック	東濃		

病床転換予定の有無、転換する病床機能、時期等をお聞きしたものです。

前述の「自施設の現状」「自施設の課題」、「2025年の4機能ごとの病床数」を踏まえ、担うべき役割をお聞きしたものです。

2025年に向けた診療科の見直しについて、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	病床機能の転換予定	2025年に向けて担うべき役割	診療科の見直し
9	城山病院	東濃		中津川市の年間死亡者数は、現在1,000人ほどでピークの状態と考えられる。現状、既在宅死亡率20%であり、施設死亡率20%、病院死亡率60%ほどである。しかし、坂下病院の病床削減に伴い、当院での看取りの役割はさらに重要と考えられる。 したがって、慢性期病床を今より医療度が低い介護医療院への転換は困難と考えている。	
10	高井病院	東濃		高齢化に伴い、より合併症の多い重症患者の増加が見込まれ、対策を講じてまいります。	
11	サニーサイドホスピタル	東濃			
12	タジミ第一病院	東濃		・地域医療構想調整会議において、療養病床の不足が課題となっているが、当院としては、急性期治療を終えた患者の受け皿となるポストアキュート機能と、在宅・施設等からの急変時の受入をするサブアキュート機能を備えた施設として地域の医療提供を担っている	
13	森川クリニック	東濃		地域の市民病院を退院したが自宅では対応しきれない患者の受け皿となる介護施設からの感染症等、対応できる範囲で入院治療できる。	
14	安藤クリニック	東濃		肛門疾患を中心とした急性期医療	
15	林メディカルクリニック	東濃			
16	めぐみレディースクリニック	東濃			
17	中西ウィメンズクリニック	東濃			